

平成30年度第2回庄内町地域包括支援センター運営協議会 会議録

- 1 日 時：平成31年3月1日(金) 13:40～14:55
- 2 場 所：余目保健センター 検診室
- 3 出席者：後藤元、菊池健一、今井真澄、高橋未央、森田義宏、齊藤学、秋庭道雄、富樫京子、田澤縁
- 4 欠席委員：遠藤智子、秋庭史、佐藤幸基
- 5 包括職員：包括課長 大隅香子、主査 佐藤陽子
- 6 事務局：保健福祉課長 門脇有、課長補佐兼健康推進係長 鈴木和智
主査兼地域支援係長 佐々木悦子、主査兼介護保険係長 長南ゆかり
地域支援係主任 高橋 亜里

1 開 会 保健福祉課長

2 会長あいさつ

先日、ハヤブサ2号の打ち上げに成功したという嬉しいニュースがあった。数々あったトラブルに一つ一つ訓練を重ねてきた成果。地域が育つことは目に見えることではない。我々のミッションは、人間が持つ不安、拒絶、心配ごとを取り除いてあげ、自らが動こうとする小さな力をつなぎ合わせ、大きな力にしていくこと。

3 報 告 (進行 会長)

(1) 平成30年度庄内町地域包括支援センター事業経過報告について

【包括課】資料により説明

【委 員】相談者欄の集計の様式が変わったが、何か意図を持って変えたのか。国からの指導か。

【包括課】町と相談して変更した。

【事務局】包括的継続的ケアマネジメントのケアマネ支援について内容を詳しくするよう指導があった。

【委 員】総合相談業務の内容が目に見えて分かる。

【委 員】前回も同じ質問をしたが、その他に入っている件数が圧倒的に多い。分かりやすい説明を。

(2) 地域密着型サービス事業所の指定更新について

【事務局】資料により説明

【委 員】承認

4 協 議

(1) 平成31年度庄内町地域包括支援センター事業計画(案)について

【包括課】資料により説明

【副会長】相談総合支援業務とは具体的には何を行うのか。

【包括課】障がい者支援業務との連携、生活困窮者支援業務との連携を行っていく。

【事務局】来年度は庄内町社会福祉協議会へ業務を委託し、生活困窮支援員を配置する。社会福祉協議会において、障がい、高齢者、生活困窮、町民の困り事について一体的に、町と一緒に相談業務を実施していく。

【会 長】平成30年度の事例や、特に31年度実施したい事業等うかがいたい。

【包括課】地域の通いの場づくりが効果を上げている。長年デイサービスを利用して利用者が、チェックリストに該当しないくらい元気になった利用者がいた。デイサービスを希望していたが、町の担当者と一緒に訪問し、一般介護予防事業のしゃんしゃんに繋ぎ、朝、町のバスでしゃんしゃんに行き、帰りはご家族から迎えに来てもらい、無事卒業できた好事例があった。

【委員】地域ケア会議に、個別と自立支援型があるが違いはなにか。

【事務局】個別のケア会議は、困難事例について検討する包括主催の会議。自立支援型は町が主催し、事例について専門職から意見をもらう会議。地域ケア推進会議で協議してもらった課題を抽出する場所でもある。

(2) 平成30年度庄内町地域包括支援センター評価について

【事務局】資料により説明

【副会長】点数がすべてではないが、どこを見て評価したらいいかわからない。

【委員】町の評価点と包括の評価点をあわせて6点。2つの合計点数から判断し、この協議会での評価としてはどうか。

【外委員】了承

【副会長】2-4地域ケア会議が全国レベルより低い。次年度の計画も18回と現場から聞いている。ケアマネジメント業務をしながらの出席となるので、時間配分など効率的に行ってもらいたい。

【会長】在宅医療介護連携の点数が低い、医療関係者から意見をうかがいたい。

【委員】庄内町は良く連携できているのではないかと思う。

【委員】実際、現場に行っていないが、聞いたかぎりでは連携できている。

【会長】民生委員としての連携はどうか。

【委員】計画の中にもあるが、地域見守り会議をしている。先日余目第4学区の会議を行なった。様々な意見が出ており、掘り下げて話し合いができた。

【委員】訪問介護事業所の代表として委員になっている。業務は居宅介護支援業務をおこなっている。主に立川地域を担当しているが、立川は地域で支えあうことが難しい地域。民生委員がいなくてころもあり、大きな課題となっている。

(3) 地域課題について（地域ケア推進会議）

【事務局】資料により説明

【副会長】通いの場は何箇所ぐらいあるのか。

【事務局】社会福祉協議会で把握しているサロンなどを含めた通いの場は80箇所以上。年5回以上の開催で1万円の補助がある。

【副会長】余目第4学区の地域の問題でもあるが、通うための送迎が課題。元気アップ教室を行っているが、送迎がやはり問題となっている。集落の人の乗りあわせで通っている人もいる。

【事務局】通所Bを行っている余目地域の緑町では、送迎も考えている。助け合いで立ち上げできないかと考えている。ひょうたん島でも通所Dができないか検討中である。

【委員】余目病院で通所サービスCの委託を受けているが、対象者の選定は難しい。実際利用者がいない状態である。介護にならないように集落で頑張っている人もいる。介護保険を使わなくなることがいいということを町民にPRをしていかなければいけない。要介護にならないためには、町民一人一人が頑張らなければいけない。

5 その他 特になし

6 閉会 保健福祉課長